

2026 年 9 月 18 日 第 3566 回例会

於： 横須賀商工会議所

持続可能な
インパクトを
生み出そう



<点鐘・開会> 12:30 渡 邊 会長

<斉 唱> 「それでこそロータリー」

<ゲスト紹介> *元防衛大学校校長、慶應義塾大学名誉教授 國 分 良 成 様

<会 長 報 告> *ガバナー事務所から

・2027年夏出発 青少年交換学生募集のお願いについて

派 遣 国：カナダ・ブラジル・メキシコ・ドイツ・イタリア・フランス・

台湾・デンマーク・スウェーデンなど

派 遣 期 間：2027年8月～2028年7月（11カ月以上1年未満）

派 遣 人 数：最大10名予定

クラブ〆切：9月30日（水）

選 考 試 験：第1日目 11月21日（土） 12:30～筆記試験

第2日目 11月22日（日） 面接（時間は受験者順次）

・2027～28年度ロータリー財団奨学生募集のご案内について

【募集プログラム】

（A）ロータリー奨学生（グローバル補助金） 奨学金額：34,000米ドル

（B）第2780地区ロータリー財団奨学生（地区補助金）：24,000米ドル

クラブ〆切：12月1日（火）

選 考 試 験：2027年2月14日（日）

<幹 事 報 告> *ガバナー月信 NO. 3

*例会終了後第3回理事役員会開催（302研修室）

<出 席 報 告> *出席委員会 加賀本副委員長から9月18日の出席報告

会 員 数	出席対象者数	出席数(ZOOM 出席数)	欠 席 数	メイクアップ数	出 席 率
103名	97名	72名（3名）	25名	2名	76.29%

メイクアップ：齋藤(麻)、松岡 両会員 地区大会出席

<ニコニコ報告>

・比 護、井 上、八 巻、権 田、梁 井、小林(-)、齋藤(働)、植 田、杉 浦、
江 沢、高橋(働)、池 田、小佐野、松本(働)、江 口、澤 田、岡田(働)、根 岸、
小保内、田 邊、飯塚(働)、田 中、鈴木(働)、藤 村、平 松、三 堀、山下和志、齋藤(働) 各会員
元防衛大学校校長、慶應義塾大学名誉教授 國分良成様、ようこそお越しくださいまし
た。卓話楽しみにしております。

・兼 城、小林(-)、荻 山、平 松 各会員 入会月祝いとして

・大野(働)、石 田、松 川、小山(働)、荻 山、加藤(働)、真 野、井 上、八 巻、
堀 川、吉 住、高橋(働)、小林(-)、野 坂、植 田、杉 浦、西 生、長 尾、
高橋(働)、池 田、佐久間、角 井、加賀本、齋藤(働)、澤 田、岡田(働)、兼 城、
小 澤、田 邊、鈴木(働)、田 中、臼 井、鈴木(働)、山下和男、齋藤(働)、木村、椿 各会員

梶木会員がご栄転になります。淋しいですが、今後のご活躍を楽しみにしております。

・小林(働) 会員 梶木会員、本当に寂しいよ～～。

・梶 木 会員 横須賀RCの活動、最後の日となりました。皆様と出会えた感謝を忘れず精進して参ります。

・石 田、松 川、八 木、植 田、長 尾、高橋(働)、
波 島、加賀本、小山(働)、平 松、齋藤(働) 各会員

商工会議所の会報誌「NEWS & REPORT」に岡田英城会員、齋藤慎太郎会員、森会員のご
息が掲載されております。皆様のご活躍の様子はとても頼もしくて嬉しいですね。

<卓 話> 「中国とアメリカ、そして日本」

元防衛大学校校長、慶應義塾大学名誉教授
國 分 良 成 様

本日は「中国とアメリカ、そして日本」というテーマでお話しさせていただきます。

私は長年、中国政治を研究してきました。振り返ると、私が大学院に進学し中国研究の道に進んだ1976年は、中国にとって歴史的な激動の年でした。周恩来首相の死去、第一次天安門事件、唐山大地震、毛沢東の死去、そして四人組の逮捕と、大きな出来事が立て続けに起きました。研究を始めた一年目にそうした状況を目の当たりにし、「中国では何が起きても不思議ではない」ということを強く感じました。以来約半世紀にわたり中国を見続けてきましたが、中国政治は常に表面だけでは分からない世界です。かつては香港からさまざまな情報が伝わってきましたが、今では内部情報も入りにくくなり、研究者にとっては以前にも増して難しい時代になりました。それでも中国を見続けていると、「何が起きても驚かない」という感覚が身についてきます。



さて、現在の国際政治ですが、私は非常に不安定な時代に入っていると思っています。かつて国際政治は「価値」「利益」「パワー」の三つで説明されると言われました。しかし今はどうでしょうか。どう考えても「利益」と「パワー」が前面に出ています。各国がどのような理念を目指すのか、どのような世界をつくりたいのかという議論よりも、自国の利益や力関係が優先される時代になっています。アメリカのトランプ大統領、ロシアのプーチン大統領、中国の習近平国家主席など、強い指導者が大きな影響力を持っています。しかし、こうした指導者中心の政治は、どこか一つで変化が起これば国際情勢全体が大きく変わるという不安定さも抱えています。だから私は、今の世界を「予測しにくい時代」と見ています。最近によく「米中二極化」「G2」という言葉が使われます。しかし私は必ずしもそうは考えていません。むしろ世界は多極化しています。アメリカ、中国だけでなく、インドや中東諸国、欧州各国など、それぞれが影響力を持つ時代です。

その中で日本はどういう立場にあるのか。最近「ミドルパワー」、つまり中堅国という言葉も使われています。アメリカのような超大国ではないけれど、国際社会に一定の影響力を持つ国です。日本はその一角を担う存在であり、世界の動きを受け身で見ただけではなく、自らの役割を考えていかなければなりません。

米中関係について申し上げますと、私は「そんなに心配しなくてもいい」と考えています。もちろん緊張はあります。しかし米中関係が少しでも改善されれば、台湾海峡を含めた東アジアの安定につながります。そもそもアメリカと中国は対立しているように見えて、経済面では深く結び付いています。TikTokは世界中で利用され、iPhoneの生産も中国が重要な役割を担っています。レアアースについても中国が世界の供給網で大きな存在感を持っています。つまり両国は競争しながらも切り離せない関係なのです。

アメリカは長い間、「中国は経済発展を続ければ、やがて自分たちと同じような国になるだろう」と考えてきました。中国を国際経済システムへ取り込み、WTOへの加盟などを後押ししたのもそのためです。しかし結果として中国はアメリカが期待したような形には変化しませんでした。この認識のずれが現在の米中対立の背景にあります。

一方の中国も、多くの課題を抱えています。経済問題、少子高齢化、党内の統制など、決して順風満帆ではありません。しかしだからといって、中国がすぐに弱体化するわけでもありません。私たちは中国を過小

評価してもいけないし、過大評価してもいけないのです。冷静に見ていくことが大切だと思います。また、台湾情勢についても必要以上に危機だけを強調するべきではありません。有事への備えはもちろん重要です。しかし、もっと大切なのは平時から準備を積み重ねることです。

日本は有事の議論になると一気に盛り上がります。しかし喉元過ぎれば熱さを忘れる傾向があります。本当に必要なのは、平時に何を整備し、どのような体制を築いておくかを地道に考えることです。安全保障も同じで、防衛費だけの問題ではありません。まず何が必要かを考え、その結果として必要な予算が決まるべきなのです。

私は防衛大学校に長く関わってきました。日本の空や海では、自衛隊員の皆さんが日々緊張感を持って任務に当たっています。中国機や艦艇との接触を避けながら、日本の平和と安全を守っています。大きな衝突が起きていないのは、彼らの高い練度と努力のおかげです。平和は当たり前存在するものではなく、多くの人々の地道な努力によって支えられていることを忘れてはならないと思います。

最後に、日本の将来についてお話ししたいと思います。先日、スウェーデンで元情報機関トップの方と話をする機会がありました。その方が大変印象的なことを言われました。「ヨーロッパには歴史や伝統を誇る国が多い。しかし過去ばかりを語っていると博物館国家になってしまう。日本が持っている本当の強みは、技術、人材、そして科学だ。」私はその言葉に強く共感しました。もちろん歴史や伝統は大切です。しかし過去の成功に安住しては未来は開けません。これからの日本を支えるのは、優れた技術であり、人材であり、科学の力です。日本がこれからも世界の中で存在感を持ち続けるためには、その強みを育て続けなければなりません。未来への投資を怠らず、人を育て、技術を磨き、新しい価値を生み出していく。そのことこそが日本に求められているのではないのでしょうか。本日はありがとうございました。



<閉会・点鐘> 13:30 渡 邊 会長

週報担当 井 上 智 史